

〈論文〉

## 俳句歳時記にみる外来語

山 野 栄 子

キーワード：俳句、歳時記、季語、外来語

### 1. はじめに

俳句は日本が世界に送り出した文学である。『入門歳時記』(1980)と『実用 俳句歳時記』(2004)を使い、俳句歳時記に取り上げられている外来語についてみる。

上記2冊は、24年の時を隔ててはいるが、編著者も違い、取り扱っている季語数も違うので厳密な経年比較はできない。しかし、俳句において好まれる外来語の傾向を探ることは、日本語の現状を知るうえで無駄ではないと考える。

### 2. 先行研究

俳句と外来語についての論文に、高橋(2003)と高橋(2004)がある。高橋(2004)には、「平成12年に発行された講談社版の『新日本大歳時記』を見ると春夏秋冬新年を通じて、391の外来語の季語がある。この五巻本の歳時記に収録されている季語は約5,000というから、約8パーセントが外来語の季語だということになる」とある。筆者が調べた限りでは、他の研究は見あたらない。

### 3. 季語数

#### 3.1 『入門歳時記』1980年

『入門歳時記』に取り上げられている季語は、全部で見出し語805語、副題1,336語で、合計2,141語である。副題というのは見出し語の異名や見出し語に準じて用いられる季語である。例えば見出し語「復活祭」副題「イースター」、見出し語「登山」副題「登山口 登山宿 ケルン」などである。

外来語数は見出し語では12語、副題では20語(外来語を含む混種語、以下混種語とする4語を含む)であった。割合は1.5%である(表1)。1980年までの新聞・雑誌・テレビ・教科書の語彙調

査によると、外来語は異なり語数では7%前後を占めている（伊藤 2007）。1.5%は7%よりはるかに少ない。

表 1

	総 数	外来語数	割 合 (%)
見出し語	805	12	1.5
副 題	1,336	20	1.5
合 計	2,141	32	1.5

### 3.2 『実用 俳句歳時記』2004年

『実用 俳句歳時記』に取り上げられている季語は、全部で見出し語 2,747 語、副題 5,306 語で、合計 8,053 語である。

外来語数は見出し語では 102 語（混種語 19 語・外来語を含む複合語 1 語を含む）、副題では 169 語（混種語 43 語・複合語 1 語を含む）であった。割合は 3.4%である（表 2）。

表 2

	総 数	外来語数	割 合 (%)
見出し語	2,747	102	3.7
副 題	5,306	169	3.2
合 計	8,053	271	3.4

## 4. 内 訳

### 4.1 『入門歳時記』1980年

見出し語と副題を合わせた季語の内訳を示す。項目は分類目次を基に筆者が分類した。飲み物 4 語、遊ぶ物 8 語、身に付ける物 5 語、植物 4 語、行事 3 語、動物 1 語、生活 7 語である。各割合を図 1 に示す。

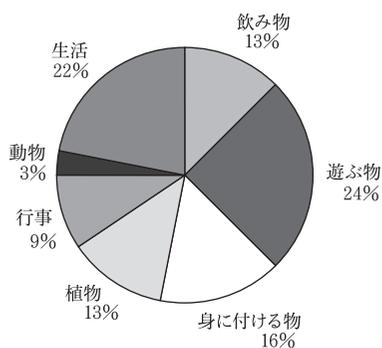


図 1

「遊ぶ物」の割合が多いのが分かる。例えば「スキー」「プール」「ビアガーデン」などがあがり、季節感が存在している。次に割合の多い「生活」も季節特有のものはっきりしており、「ストーブ」「スチーム」「ラッセル車」などである。「食べ物」が一つもない。編著者の取捨選択の結果ではあるが、食べ物に季節感がなくなっていることの反映であろうか。

#### 4.2 『実用 歳時記』2004年

見出し語と副題を合わせた内訳は、飲み物 15 語、遊ぶ物 46 語、身に付ける物 45 語、植物 69 語、行事 12 語、動物 2 語、生活 42 語、食べ物 40 語である。各割合を図 2 に示す。

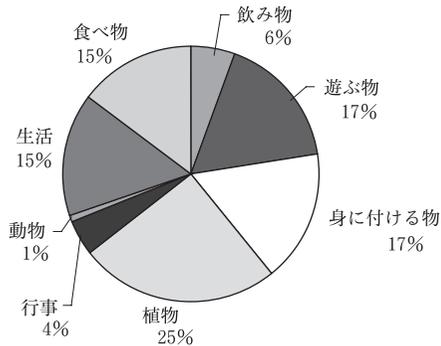


図 2

「植物」の割合が多いのは、輸入品が増えたためと思われる。加えて和名だけではなく、外来語で呼ぶこともあることが考えられる。例えば「<sup>ほたるぶくろ</sup>蛍袋」の異名で、「カンパネルラ」, 「<sup>はなみずき</sup>花水木」の異名で「アメリカン・ドッグ・フラワー」などである。「食べ物」「飲み物」に比べ、「植物」にはまだまだ季節感が存在している物が多いということでもある。

## 5. 拍数

### 5.1 『入門歳時記』1980年

各外来語の拍数を見してみる。和語・漢語との混種語・複合語は、季語としてのまとまりを優先し、和語・漢語部分も含んで数える。

#### 見出し語

3拍：7 4拍：2 5拍：3

#### 副題

3拍：3 4拍：7 5拍：6 6拍：3 8拍：1

図 4 はそれぞれの拍数の割合を示したものであるが、「マスク」「ラムネ」「スワン」などの 3 拍の季語が最も多く、5 拍以下が 88% である。

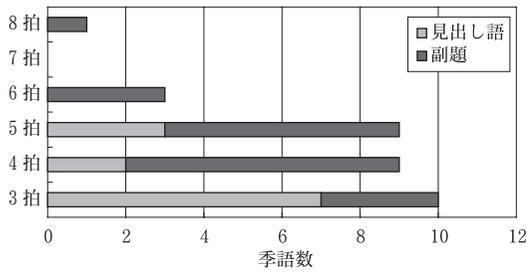


図3

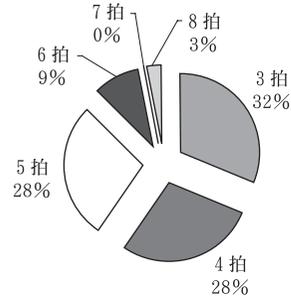


図4

5.2 『実用 歳時記』2004年

見出し語

2拍：1 3拍：23 4拍：27 5拍：22 6拍：19 7拍：5 8拍：3 9拍：2

副題

2拍：3 3拍：16 4拍：33 5拍：39 6拍：33 7拍：28 8拍：12 9拍：1  
10拍：2 11拍：1 12拍：1

図6はそれぞれの拍数の割合を示したものであるが、「サンオイル」「フリージア」「クリスマス」

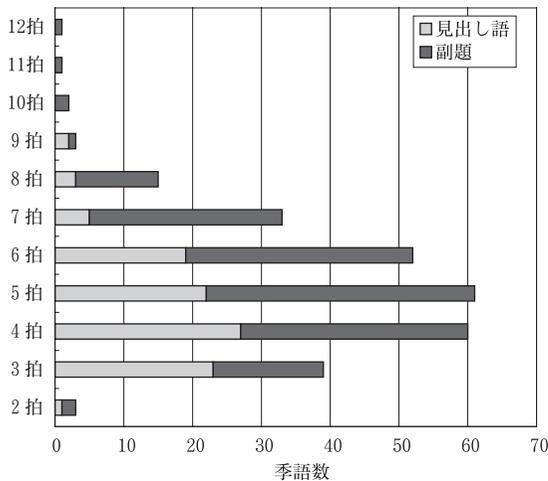


図5

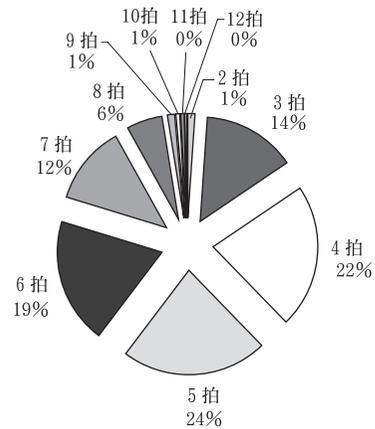


図6

などの5拍が最も多く、5拍以下は61%である。1980年と単純に比べると、取り上げている季語数そのものが多いので、拍数の多い外来語の割合も自ずと高くなることを考え合わせても、全体的に拍数の多い外来語が多くなってきていることが窺える。長い語でも、難なく覚えたり、身近な物、身近な事として使ったりしているのではないだろうか。

## 6. 『入門歳時記』1980年において『実用 歳時記』2004年のない季語

『入門歳時記』1980年において、『実用 俳句歳時記』2004年のない季語を見てみる。「ビアホール」「ケルン」「バルコニー」「ベランダ」「テラス」「ヒーター」の6語である。「バルコニー」「ベランダ」「テラス」に季節感というのも変であるが、この3語は、「露台」の副題としてあがっていたもので、籐椅子・木椅子などが置かれ、夏に涼を取る場所として取り上げられている。今日の日常生活では、集合住宅などでは特に、洗濯物を干す場所などになってしまい、季語としての情趣がなくなったか。ちなみに2004年には、「露台」もない。「ビアホール」は、飲食店の形態が変わり、廃れつつある言葉か。「ケルン」はもう十分山頂などに積石があり、目に馴染んだ物となり、句作に用いられることもなくなってきているのか。「ヒーター」は、2004年では、生活用品が充実してきたせいか、「ガスストーブ」や「石油ストーブ」などと細かく分かれる。

## 7. おわりに

俳句における外来語の使用は、江戸時代の松尾芭蕉からもう始まっている。高橋（2003）に

季語をもったいわゆる俳句として最初に外来語を用いたのはやはり芭蕉のようである。芭蕉は  
甲比丹もつくばはせけり君が春  
という句を延宝七年（1679）頃作っている。甲比丹はカピタンで、オランダ語の kapitein に漢字を当てたものである

とある。明治になり、カタカナ表記されるようになってからも、正岡子規なども積極的に使用している（高橋 2003）。和語や漢語とは違う響き、新しい物、新しい事を楽しもうという心意気が感じられる。現代においてもより斬新な言葉を求め、句作に反映させているのがわかる。そして、その選ばれる言葉は、「植物」など、きれいで、季節を感じるができるものである。さらに、「鉄線てっせん花か」を「クレマチス」と異名を使うことにより目新しさ、異国感を出すこともできる。俳句に外来語を取り入れる傾向は今後も続くであろう。

### 謝 辞

本論執筆にあたり、井上史雄先生よりご助言をいただきました。ここに改めてお礼を申し上げます。

### 参考文献

- 石綿敏雄（2001）『外来語の総合的研究』東京堂出版
- 石綿敏雄（1985）『日本語の中の外来語』岩波書店
- 伊藤雅光（2007）「国立国語研究所 第30回ことばフォーラム」予稿集

- 榎本好宏（2002）『季語語源成り立ち辞典』平凡社  
——（2007）『季語の来歴』平凡社  
大野林火（1980）『入門歳時記』角川書店  
高橋悦男（2003）「外来語と俳句」『早稲田社会科学総合研究』第4巻第2号  
高橋悦男（2004）「季語になった外来語」『早稲田社会科学総合研究』第5巻第1号  
辻 桃子（2004）『実用 俳句歳時記』成美堂出版  
長谷川真理子他（2006）『外来語と現代社会』国立国語研究所  
文化庁（1997）『言葉に関する問答集 — 外来語編 —』  
文化庁（1998）『言葉に関する問答集 — 外来語編(2) —』